今回が私の3回目の報告となります。

以前にも増して当院を取り巻く社会的環境ならびに医療事情は厳しさを増しつつあります。将来を楽観できず、逆風に立ち向かい消えかけている「風前の灯」の思いが強くなっています。

世間にショックを与えた最近の報道は日之影町が近い将来消滅してしまう可能性が高いと伝えていました。行政・民間が知恵を絞り、手を携えて数多くの手段を構じていますが、残念なことに人口の急激な減少傾向は続いており4000人を割り込みそうな勢いです。その一方で異常なまでの高齢化への道を突き進んでおり、当院の患者様の大半は80歳をとうに越えておられます。老人性難聴の方が多く外来診療が終わるころには医師・看護師の声がかれてしまうこともしばしばです。入院患者様の高齢化はもっと著明で、平均年齢は90歳前後に届きます。その高齢者人口も実数では減りつつあるようです。

道路インフラの整備は順調に進み自家用車による町外へのアクセスは、ますます便利になり大変喜ばしいことです。自家用車を保有している比較的若い方々が便利な道路を利用して町外の専門的医療機関や多数の診療科を持つ便利な医療機関に通院することがたやすくなってきました。

その様な事情もあり、当院の来院患者数は減少傾向にあります。一方、病状が回復し治療不要となっても要介護状態となり自宅退院が困難で施設入所を待機

している社会的長期入院者は、ますます増加し入院患者全体の５０％を越えました。現在の診療報酬制度では長期入院患者に薄く設定されており、経営収支に大きな影響を与え始めています。すでに町の一般会計からの多額の繰入金に頼らねば病院の存続が危ぶまれる状態が長年続いており大きな問題です。

こんな悪状況下でも何とか病院が存続し医療を継続し得たのは、地域医師会の先生方の御協力と御指導によるところが大きく、紙面をお借りし改めて御礼申し上げます。また県立延岡病院をはじめ県北部の各病院の先生方には救急患者様や我々の専門外あるいは重症の患者様の受け入れをいつも御寛容をもち御許可いただき感謝に耐えません。

病院を取り巻く社会の潮流に逆らった高額の新規医療機器や施設の新整備、あらたな診療科や部門の開設、専門医の招聘、医療技術者の拡充は長・短期的いずれにみても困難です。しかしながら、X 線一般撮影装置、全身 X 線 CT や超音波断層診断装置、上部消化管内視鏡装置などの現代の医療に必要不可欠なベーシックな機器の更新は幸いにも町の行政当局の御理解がありほぼ標準的なものを装備できております。また退職に伴う人材補充にも前向きに取り組んでいただいており本年も新たに 4 人の新人看護師を迎えることができ 10 対 1 入院基本料を何とか維持することができました。

当院の常勤医師は３名で、ここ十数年間医師定数を充足できておりません。

常勤医師の平均年齢は55歳を超え知識・技術は下り坂にあります。体力・気力も衰えて毎月十回を越える日当直勤務に青色吐息で耐えています。そして約十年後には、ほぼ全員同時に停年退職を迎えることとなります。県北部は特に医師不足が著しく将来の医師確保が憂慮されますが、今のところは非常勤医師の先生方の御協力で何とか「標欠」医療機関への転落を免れています。

厳しい医師不足の中、宮崎大学第二外科医局から常勤医１名と週末の当直医派遣の御支援を継続していただき、大変ありがたく思っております。

ただ現状勢では臨床検査技師と診療放射線技師を複数名雇用することは困難でそれぞれ１名づつしかおりません。このため診療時間外の検査体制を構築することができません。また３人の医師では内科と外科の医師を同時に当直配備することは不可能です。このため当直時間帯では、検査を必要とするような重症患者様や当直医の専門外の傷病には対応できません。平成２７年度より始まる西臼杵地区の常備消防体制に伴い救急車にて搬送される患者様をすべて受け入れることは残念ながら不可能な状況にあり、周辺の医療機関に御迷惑をおかけすることがあるかもしれないと危惧しております。

最近の医療は入院から在宅へとシフトしつつあるようです。当院でも地域に密着した医療を目指し、在宅療養中の患者様方への往診や定期的な僻地巡回診療を細々とではありますが地道に継続しています。かかりつけ患者様の医療と

ケア全般について検討するための会議が毎月院内で行われており、介護保険サービス事業者、町包括支援センター、保健師、病院スタッフが参加して自由な雰囲気で事例検討を行い必要な情報を交換・共有しています。我々が気づく前に、患者様のわずかな変化を発見して報告していただくこともあり、医学的見地よりアドバイスを求められることもしばしばあります。定期的に互いの顔を見て会話をすることで得られる医療とケア担当者の相互信頼は住民のための医療をすすめるために大変有用です。

当町では独居老人や高齢者夫婦のみの世帯が非常に多く、病院に入院し治療が完結しても介護が必要な状態となれば簡単には自宅へ退院できず、気づけばいつの間にか、社会的入院をやむなく長期継続せざるを得ない患者様が入院患者様数の半数を超えて増加しつつあります。高齢者を支える若年人口の減少がその根底にあります。これは社会の流れですので、大変残念ですが私達にはどうすることもできません。

このようなマイナス材料が多くある中、住民の代表の皆様に今後の病院のあり方について様々な観点より議論していただくことを目的として、昨年、町立病院経営検討委員会が町役場内に開設されました。協議が進んでいますが答申が出されるまで、まだしばらくの時間を要するように聞き及んでいます。我々病院職員はこの答申に基づき今後の病院運営に携わってゆくことになりますので、

関心深く見守っているところです。

　これからも地元に密着し、町民が気楽に来院できる、親切で頼っていただける病院を目指したいと職員一同考えております。以上をもって当院の現状報告とさせていただきます。

　医師会の先生方にはこれからも御指導の程、よろしくお願い申し上げます。